

ITP パートナー機関 ボツワナ大学人文学部アフリカ言語・文学科 (HP 用)

経過：

平成 20 年度より、ナミビアのボツワナ大学における ITC の語学研修コースが開設された。それに先立って、現地における研修生の受け入れ体制の視察と、受け入れ条件に関する合意文書の作成のために、ASAFAS 教員（荒木、高田）と、専門員（窪田）が平成 20 年 7 月にボツワナに渡航した。

京都大学 ASAFAS とボツワナ大学の間には、平成 19 年 7 月に部局間協定が結ばれている。相手側が大学であるので本来ならば大学間協定を結ぶべきところであるが、人文社会科学、地域研究系以外の、理工系分野における研究交流、学生交流においても、ASAFAS が仲介の役割を果たすという含みをもたすことで、締結に至った。ボツワナ大学では、国の経済的好況を背景に、若手研究者の養成に力を入れており、毎年独自の予算で、海外に留学生を派遣している。特に、技術系分野での要望が強く、今後 ASAFAS からの学生派遣に呼応した、ボツワナ大学教員、学生との国際交流が活発になっていく見込みである。

受け入れ機関：

今回、語学研修コースの受け入れ機関となったのは人文学部アフリカ言語・文学科であり、学生登録にもとづく寄宿舎、図書館や厚生施設の利用などの便宜は、国際プログラムオフィスを通じておこなわれる。ボツワナ大学はボツワナ唯一の国立総合大学であり、創立は 1982 年、もともと南アフリカ 3 国共同で運営されていたボツワナ・レソト・スワジランド大学から分離独立した。8 学部（経営、教育、工学、大学院、健康科学、人文科学、理学、社会科学）に属する教員数 560 人、学生数 16000 人。ボツワナはダイヤモンドをはじめとする鉱産資源の輸出による外貨獲得が国の財政を潤し、それが教育、インフラなど国の将来を支える投資に着実に還元されている様子がかがえる。大学でも現在、キャンパスを拡張中であり、また、学生宿舎、プール、運動場などの厚生施設も整備されている。



写真 1. 大学本部建物



写真 2. 中央図書館



写真 3. 中央図書館カウンタ



写真 4. 竣工まもない経営学部建物

語学研修コース：

現在アフリカ言語・文学科では、外国人学生のためにツワナ語、カランガ語、カラハリ語、ズールー語、スワヒリ語、リンガラ語をはじめとするアフリカ諸言語の入門コースが設けられている。8月から12月まで15週(1学期、2単位)で、時間数は90時間。外国人学生がアフリカで調査をするのに必要な語学力の初歩を身につけるのに適しており、ボツワナ国内の現地研修も含まれる。このコースは、国際教育プログラムの一環として設けられており、プログラム全体としては、1学期間に15単位の履修が設定されている。1学期の授業料は、19,705Pula, 3,230US\$である(2008年11月)。

ITPの受け入れ体制としては個人授業として、上記の語学入門コースを3ヶ月間に圧縮して行なうことが了承された。また上記にあげられているもの以外のアフリカ諸言語についても、適任の教員が見つければ語学入門コースのアレンジを検討することが了承された。

大学に支払う経費は以下のとおりである(2008年11月)。

国際学生登録料： 2800Pula (467US\$) /年

授業料： 5400Pula (900US\$) /3ヶ月

寄宿料： 4650Pula(775 US\$)/3ヶ月

合計： 12,850Pula (2,141US\$) /3ヶ月

生活環境：

大学構内の外国人学生用の寄宿舎は、共同キッチンと4部屋の個室からなるフラットからなり、語学研修を受けるかたわら、共同生活による外国人学生との国際交流ができる点でよい環境であるといえる。また、大学内の厚生施設(プール、運動場)、図書館の利用が可能である。



写真 5. 外国人学生用寄宿舍



写真 6. 共同キッチン



写真 7. 個室